

【展示室2】

	作者	生没年	作品名	
17	<small>おくはら せいこ</small> 奥原 晴湖	1837-1913	松鶴遐齡	絹本 彩色 軸装
18	<small>おがわ うせん</small> 小川 芋銭	1868-1938	木精	絹本 彩色 軸装
19	〃	〃	桃花源之図	絹本 彩色 軸装
20	<small>いのせ どうねい</small> 猪瀬 東寧	1838-1908	雪景山水図	絹本 淡彩 軸装
21	<small>ごせだ ほうりゆう</small> 二世 五姓田 芳柳	1864-1943	八幡大神	絹本 彩色 軸装
22	〃	〃	天照大神	絹本 彩色 軸装
23	〃	〃	春日大神	絹本 彩色 軸装
24	<small>きむら ぶざん</small> 木村 武山	1876-1942	寿老人	絹本 彩色 軸装
25	<small>よこやま たいかん</small> 横山 大観	1868-1958	洛陽の夕	絹本 彩色 軸装
26	<small>しもむら かんざん</small> 下村 観山	1873-1930	和合神	紙本 淡彩 軸装
27	<small>よこやま たいかん</small> 横山 大観	1868-1958	暁色	絹本 彩色 屏風
28	<small>もり た しげる</small> 森田 茂	1907-2009	黒川能	麻布 油彩 額装
29	<small>くりはら しん</small> 栗原 信	1894-1966	箱根	麻布 油彩 額装
30	<small>つるおか よしお</small> 鶴岡 義雄	1917-2007	双扇舞	麻布 油彩 額装
31	<small>ならおか まさお</small> 奈良岡 正夫	1903-2004	雪の朝	麻布 油彩 額装
32	<small>さとう ただかつ</small> 佐藤 忠克	1943-	春を待つ -六合村にて-	麻布 油彩 額装
33	<small>さかもと たかいち</small> 坂元 貴一	1947-	初雪の頃	麻布 油彩 額装
34	〃	〃	薔薇	麻布 油彩 額装
35	<small>ごせだ ほうりゆう</small> 二世 五姓田 芳柳	1864-1943	雪景	麻布 油彩 額装
36	—		明治天皇御製 雪中早梅	紙本 書 軸装
37	—		昭憲皇太后御詠 萬民祝	紙本 書 軸装
38	<small>こばやし そうきよじん</small> 小林 巢居人	1897-1978	水郷「春」	紙本 淡彩 軸装
39	〃	〃	水郷「冬」	紙本 淡彩 軸装

所蔵コレクション紹介



暁色

横山大観(1868~1958)

麻布・墨画・屏風(二曲一双)
171.5cm×173cm×2

横山大観は、菱田春草らとともに意欲的に日本画における線の問題に取り組みました。元来、東洋画は線の芸術といわれるように線描きを不可欠の要素としました。しかし、彼らは線描きに頼らず、西洋画の技法を取り入れ、いわゆる「ぼかし」を用いて画面の空間を構成しました。そのため彼らの作品は朦朧体といって一般からの非難をうけました。「暁色」は、「ぼかし」が如実にあらわれている作品で、夜明けの景色を「ぼかし」によって効果的に表現しています。

【企画展示室】

	作者	生没年	作品名	
40	<small>おくはら せいこ</small> 奥原 晴湖	1837-1913	福祿寿	紙本 淡彩 額装
41	<small>おがわ うせん</small> 小川 芋銭	1868-1938	蓬萊山	絹本 彩色 額装
42	<small>こせだ ほうりゆう</small> 初世 五姓田 芳柳	1827-1892	二見浦	絹本 彩色 額装
43	<small>かど い きくすい</small> 門井 掬水	1886-1976	舞い	絹本 彩色 額装
44	<small>きむら ぶざん</small> 木村 武山	1876-1942	鶴	絹本 彩色 屏風
45	<small>はつみ かずお</small> 初見 一雄	1924-	龍跳天門 虎臥鳳閣	板 刻字 額装
46	<small>はつみ たいせい</small> 初見 太清	1954-	悠然見南山	板 刻字 額装
47	<small>みながわ すえこ</small> 皆川 末子	1947-	蒼き武者 平将門	古布 布絵
48	<small>そめ や こうそん</small> 染谷 曠邨	1953-	李白詩 山中答俗人	紙本 書 額装
49	<small>やまぐち めいかん</small> 山口 明観	1935-	禅語 二句	紙本 書 屏風
50	<small>よこしま せいこう</small> 横島 青江	1935-2015	西田幾多郎の歌	紙本 書 額装
51	<small>ひらせ うそん</small> 平勢 雨邨	1920-2009	『徒然草』二十一段抄と戴叔倫の詩	紙本 書 額装
52	<small>なかざと たろうえもん</small> 十三代中里 太郎右衛門	1923-2009	三島搔落し魚文鉢	陶磁器

	作者	生没年	作品名	
53	<small>きんじょう じろう</small> 金城 次郎	1912-2004	魚紋抱瓶	陶磁器
54	<small>ふじわら けい</small> 藤原 啓	1899-1983	備前德利 酒杯	陶磁器
55	<small>みわ きゆうせつ</small> 十一代三輪 休雪	1910-2012	萩茶碗	陶磁器
56	<small>さかいだ かきえもん</small> 十四代酒井田 柿右衛門	1934-2013	野草花文陶管	陶磁器
57	<small>しまだ ふみお</small> 島田 文雄	1948-	彩磁椿文鉢	陶磁器
58	<small>わだ もりひろ</small> 和太 守卑良	1944-2008	彩土杉文器	陶磁器
59	<small>まつい こうせい</small> 松井 康成	1927-2003	練上波調文茶椀	陶磁器
60	<small>かくれざき りゅういち</small> 隠崎 隆一	1950-	備前德利 酒呑	陶磁器
61	<small>ごせだ ほうりゅう</small> 二世 五姓田 芳柳	1864-1943	花房子爵古稀祝賀画集	絹本 彩色 詞画冊

所蔵コレクション紹介



鶴

木村武山(1876~1942)

絹本・彩色・屏風(六曲一双)166.7cm×370.2cm×2

木村武山は、大正13年の「群鶴」や昭和5年の「鶴の巢籠」など鶴をモチーフとした作品を発表しています。鶴が吉祥の画題でもあることから多くの作品を残しており、この屏風のようにひな鳥とともに描かれたものや巢籠もりの様子の作品が多くあります。

六曲一双の金地屏風の大画面に、小川を描いて地表を表し、枯れていく様子まで表現した笹を描く以外、背景に何も描かない簡潔な画面は、武山が鶴の親子の一瞬の動きに神経を注いだことをうかがわせます。また、鶴の羽は一枚一枚まで克明に描くことで表され、羽の柔らかさが表現されており、武山の技巧が遺憾なく発揮されています。